

## 赤ちゃんに現れやすい症状と対処法

赤ちゃんの普段の様子を知っておきましょう。  
赤ちゃんの様子がいつもと違うな~と感じた時は、  
赤ちゃんからのSOSかもしれません！  
注意して観察してあげましょう。  
赤ちゃんには早めの対処が必要です。



### 発熱 (37.5℃以上)



赤ちゃんの体温調節機能は未熟です。

泣いた後、授乳後、着せすぎ、部屋の温度が高いなどでも体温が上がります。

脱水に注意し、こまめに水分をあげましょう。

上記に気をつけても熱が下がらない時は、小児科を受診しましょう。

### めやに

綺麗な濡れガーゼや清浄綿でふき取りましょう。

黄色いめやにが続く場合や、ベトベトして目が開かないくらいであれば眼科を受診しましょう。

### 発疹



お風呂の時は石けんを使い、清潔にしましょう。

赤ちゃんは汗をかきやすいのでこまめに拭き、服が濡れた時は着替えさせてあげましょう。

発疹の出ている範囲が広がりジクジクしている時は、小児科を受診しましょう。

## 鼻づまり

赤ちゃんの鼻は粘膜が敏感なので、ちょっとしたことで鼻がつまり寝苦しそうにすることがあります。お部屋が乾燥しないよう加湿器を使ったりするのも良いでしょう。

**鼻汁がたくさん出たり、咳が出たりゼイゼイするようなら小児科を受診しましょう。**

## 吐く

たらたらと出す時はよく飲んでいることが原因なので心配ありません。

おっぱいの後は必ずゲップをさせてあげましょう。5分ほどしても出ない場合は寝かせて大丈夫ですが、心配な場合は横向きで寝かせ、吐いたものを詰まらせないようにしましょう。

**苦しそうに何度も吐く、噴水のように吐き続ける、飲みが悪いなどの場合は小児科を受診しましょう。**

## 驚口瘡

お口の中が白く、ガーゼなどで拭いてもとれない場合は驚口瘡の可能性がります。これはカンジダというカビの一種です。

原因として消毒がきちんとできていない哺乳瓶や汚い手が考えられます。哺乳瓶や乳首はきちんと消毒し、手も清潔に保ちましょう。赤ちゃんの口、食道の粘膜に炎症を起こしたりすることがあるので、**おっぱいの飲みが悪くなったりするようなら小児科を受診しましょう。**

## おへその出血

出血が少量で血液が固まっているようなら心配いりません。

**出血がじわじわと止まらない、出血が何日も続いているという場合は、電話で相談して下さい。**

## おへそがじくじく、くさい

アルコール綿、又は消毒液を付けた綿棒などで消毒しましょう。

**おへその周りが赤く腫れ、膿や血が出るようなら小児科を受診しましょう。**

